『新編 一宮町史』編さん事業の活動報告 No.4 15区青年館 資料調査（郷土史）

令和4年度から10年計画で新たな町史『新編 一宮町史』の編さん事業を行っています。

旧『一宮町史』は、昭和39年（1964）に刊行され、刊行後60年が経過しています。

地域のアイデンティティである郷土の歴史を後世に伝えていくべく、編さん委員会を中心に調査活動を進めています。

このコーナーでは調査活動の様子を紹介していきます。今回は15区青年館での資料調査を紹介します。

地域に残された資料は、その地域の歴史を語る貴重な資料です。それらの資料は地域で古くから地元の人々によって守られ、今に伝えられてきています。

しかしながら時代の流れとともに、そのような貴重な資料であるという認識が、徐々に薄れてしまうケースが多いことも事実です。歴史的価値を再認識することが重要です。

今回は15区で代々受け継がれてきた資料の調査について紹介します。

▲調査風景

令和6年11月、15区の役員の方々からの情報提供により、青年館に保管されている仏像や堂、掛軸などの調査を行いました。かつて町教育委員会では、平成10年（1998）度から14年（2002）度にかけて仏像彫刻の悉皆調査を行いましたが、その際には調査されていなかった仏像であり、今回の調査が初となります。

青年館内には不動堂のような様式のお堂があり、その中に厨子入りの木造不動明王立像などが安置されています。不動明王の脇侍は新調されていますが、旧脇侍のうち1体には慶応3年（1867）の墨書銘があり、幕末の製作であることがわかります。堂も不動明王立像も製作年代は不明ですが、江戸時代後期頃ではないかと推測されます。

▲木造不動明王立像（厨子入）

▲堂（調査中のため内部の仏像の一部を外に出している）

そのほか、江戸時代末期に使用されていたとみられる阿弥陀如来像の掛軸（葬儀の際に掲示し、地域で持ち回りで保管していたもの）、出羽三山講に関係する資料などが確認されました。掛軸類は大正時代頃に再表装されているものもあり、資料が収納されていた箱も同時期に新調されていることが記されています。また、それらの新調には地域の人々が関わっていたことが、それぞれの墨書銘からわかります。まさに地域で守り伝えられてきた資料といえます。

15区は旧新笈村の村域に含まれています。新笈村は明治14年（1881）に一宮本郷村と合併していることもあり、同村に関する資料はそれほど多く残っていません。そういった意味でもこれらの資料の歴史的価値が見出せます。

まだまだ一宮地域には調査が進んでいない資料が数多く眠っています。これからも町教育委員会では、町の歴史がわかる古い資料や古文書などの調査を行っていきますので、皆さんからの情報をお待ちしています。

（学芸員・江澤一樹）

【問合せ】 教育課 ☎（42）1416